

もう(石炭)を燃やして 発電する時代ではありません!

今、袖ヶ浦で石炭火力発電所建設計画が
着々と進められています。

石炭火力発電はどんなに最新型であっても、
たくさんのCO₂や大気汚染物質を大気中に放出するため、
世界では、既存の石炭火力発電所の設備も
次々廃止にする方向で動いているのです。

袖ヶ浦の火力発電所建設計画って どんな計画なの?

袖ヶ浦市中袖で計画されている「(仮称)千葉袖ヶ浦石炭火力発電所1, 2号機建設計画」は、出光興産(株)、九州電力(株)、東京ガス(株)の3社が共同出資して設立した(株)千葉袖ヶ浦エナジーが、設備容量100万kWの石炭火力発電所2基を建設するものです。国内の石炭火力発電所建設計画の中で最大級です。

現在、建設予定地の近くに2ヶ所火力発電所がありますが、液化天然ガス(LNG)を燃料にしています。この計画は、同地区で初めて石炭を燃料とする計画です。

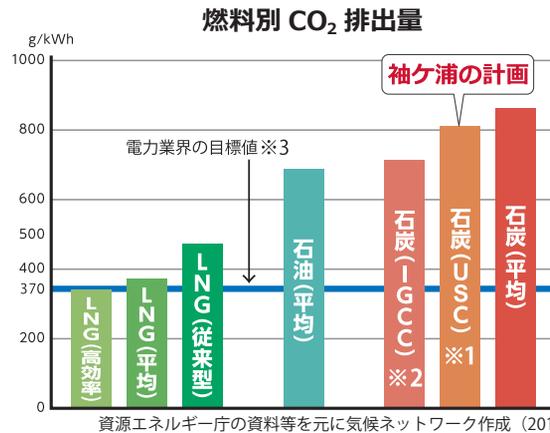
環境大臣は 「是認できない」

環境大臣は2015年8月にCOP21の日本の約束草案、エネルギーミックスに影響を及ぼしかねないとして袖ヶ浦の石炭火力発電について『是認できない』としています。

石炭火力発電所の5つの問題

1 気候変動

今、地球環境は激変し、地球の気温上昇によって異常気象が多発しています。世界各国は「パリ協定」を締結し、膨大なCO₂を排出する石炭火力発電所を止めていく方向にあるのです。石炭火力を建設すること自体が世界の潮流に逆行しています。



※1 石炭発電の使用電力量あたりのCO₂排出量は、最新型でも約800g-CO₂/kWh。一方、天然ガス火力発電所は、最新コンバインドサイクルで約350g-CO₂/kWh。
※2 石炭ガス化複合発電(IGCC)の使用電力量あたりのCO₂排出量は、約700g-CO₂/kWh程度。
※3 電気事業者団体の2030年度の排出係数目標 (370g-CO₂/kWh)

2 大気汚染



石炭を燃やすと、CO₂ だけではなく、硫黄酸化物 (SO_x)、窒素酸化物 (NO_x)、PM2.5、水銀など、人体に有害な大気汚染物質が排出され、どんなに性能が良い装置を使っても煙突から汚染物質が出ます。現在も年々ぜんそく患者は増え、呼吸器疾患だけではなく、心筋梗塞や循環器系疾患なども引き起こし、様々な健康への影響が懸念されます。

3 温排水や石炭灰

石炭火力発電所からは大量の温排水が排出されます。現在、東京湾は水温の上昇により生態系が変わりつつあり、これに拍車をかけることになるでしょう。また、石炭を燃やした後に残る石炭灰には重金属が含まれ環境汚染を引き起こします。石炭火力発電ができれば、数十年に渡って発生する大量の石炭灰の行き先はどうなるのでしょうか。



4 電気は足りている

東日本大震災以降、電力需要は10%も減少し電気は足りています。海外ではすでに太陽光や風力発電価格が原発・火力発電より下がっています。再エネに遅れた日本で『石炭が現時点で安い』というだけで2025年から動かす石炭火力発電所を作る必要があるのでしょうか？むしろ未来型産業を誘致すべきです。

5 座礁資産

気候変動を引き起こす最大の原因である石炭を燃やすことは今後大きく制限されます。そのため、石炭火力発電所をつくっても「座礁資産」になると言われています。今世界中の金融機関や投資家が石炭事業者からの投資撤退を進める「ダイベストメント (投資引揚げ)」の動きがさかんになっており、その規模は、837 機関、総額約6兆ドル (約640兆円) にのぼります。

*ダイベストメント

URL : <https://gofossilfree.org/divestment/commitments/>

未来は自然エネルギー100%の世界へ

今、太陽光や風力、地熱、バイオマスなど自然エネルギーは基幹電源として活用できる時代になっています。世界では、自然エネルギー100%を目指す国や自治体、企業が増えており、コストは石炭や原発を大きく下回るまでになっています。

日本は大きく遅れをとっていますが、自然に恵まれた日本こそ自然エネルギー大国をめざすべきです。

